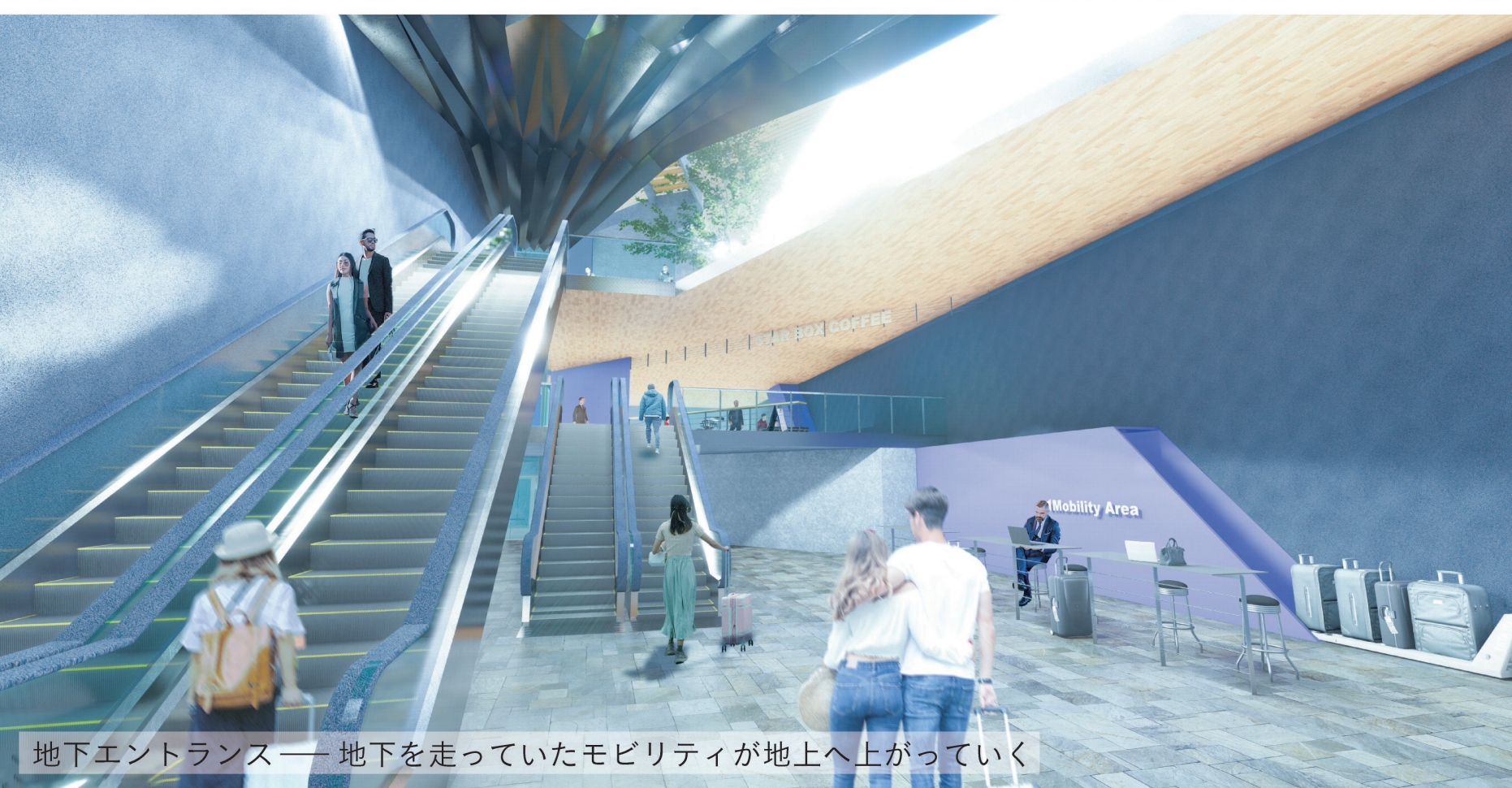
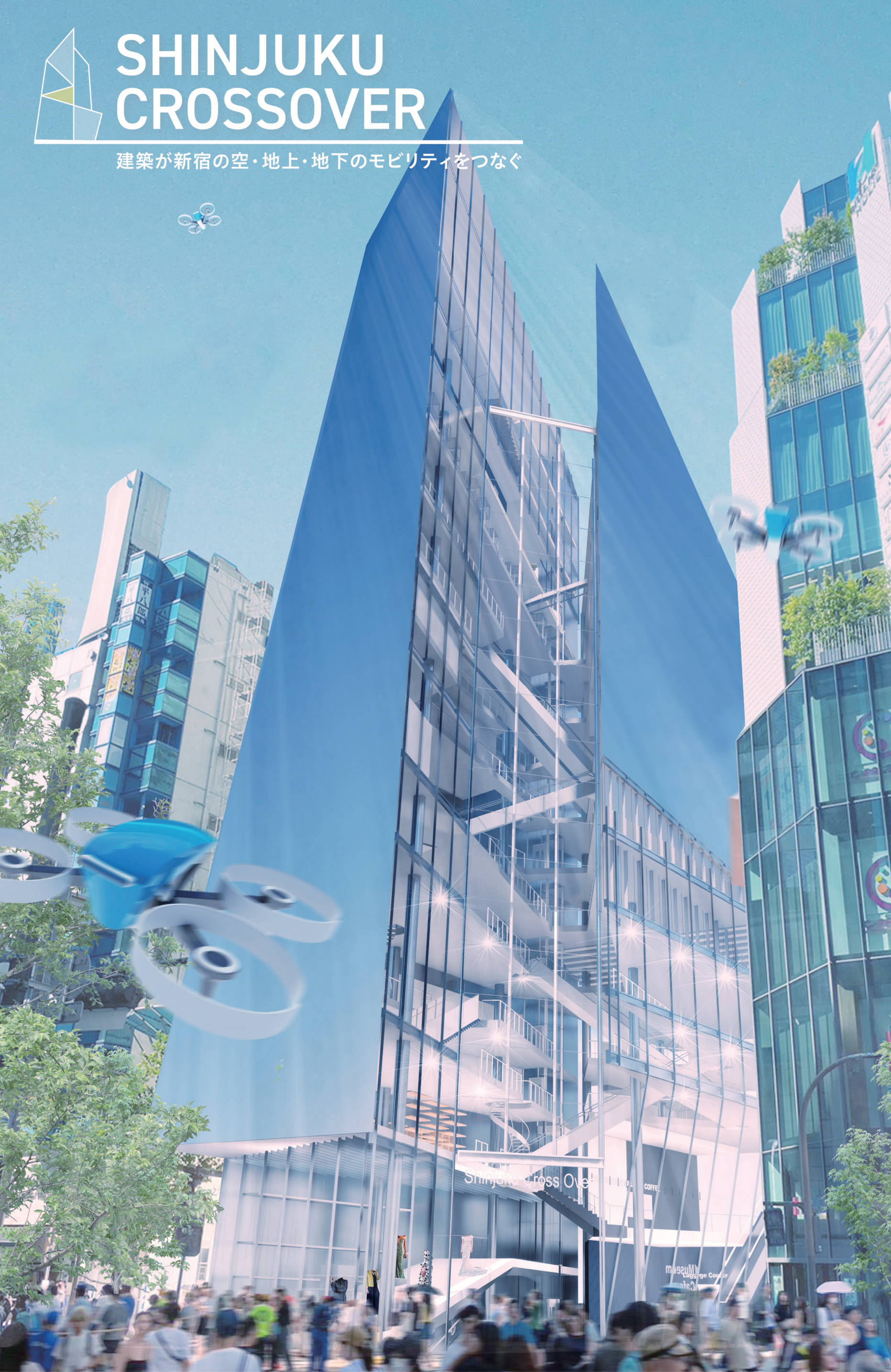


SHINJUKU CROSSOVER

建築が新宿の空・地上・地下のモビリティをつなぐ



01. 新宿三丁目：ヒトとモノが交錯する街

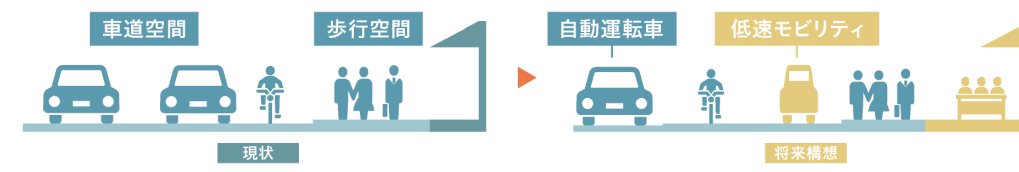
新宿三丁目周辺は大量のモノとビジネスマン・観光客があつまる高密度地域である。一方でそれゆえに各種建物への搬入空間が不足しており、**路上に荷さばき車両が並ぶ光景**が多く見られる現状がある。これらが歩行者動線に干渉し、**滞留空間の不足**にもつながっている。加えて観光客の中にはコインロッカーの不足により荷物を思うように預けられず、新宿の路地へ足を運ぶことを躊躇う人も少なくない。



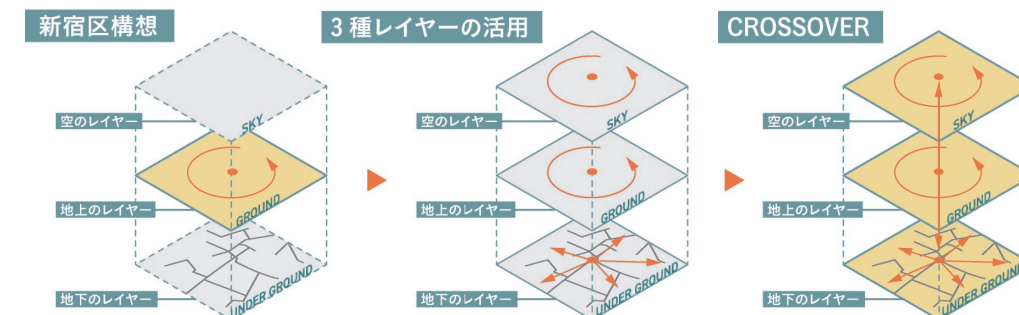
▲路上に並ぶ荷さばき車両

02. 新宿区 次世代モビリティ構想

新宿区は「**新宿三丁目駅周辺まちづくり誘導方針**」において将来的に歩行を補完する次世代モビリティや物流の自動化を図る宅配ロボット等が低速走行し歩車共存できる次世代型都市を目指すと言っている。本計画はこれと呼応し新宿区が掲げる地上のモビリティ構想に、上空及び地下空間を加えた立体的なモビリティ網を可能にする建築を提案する。

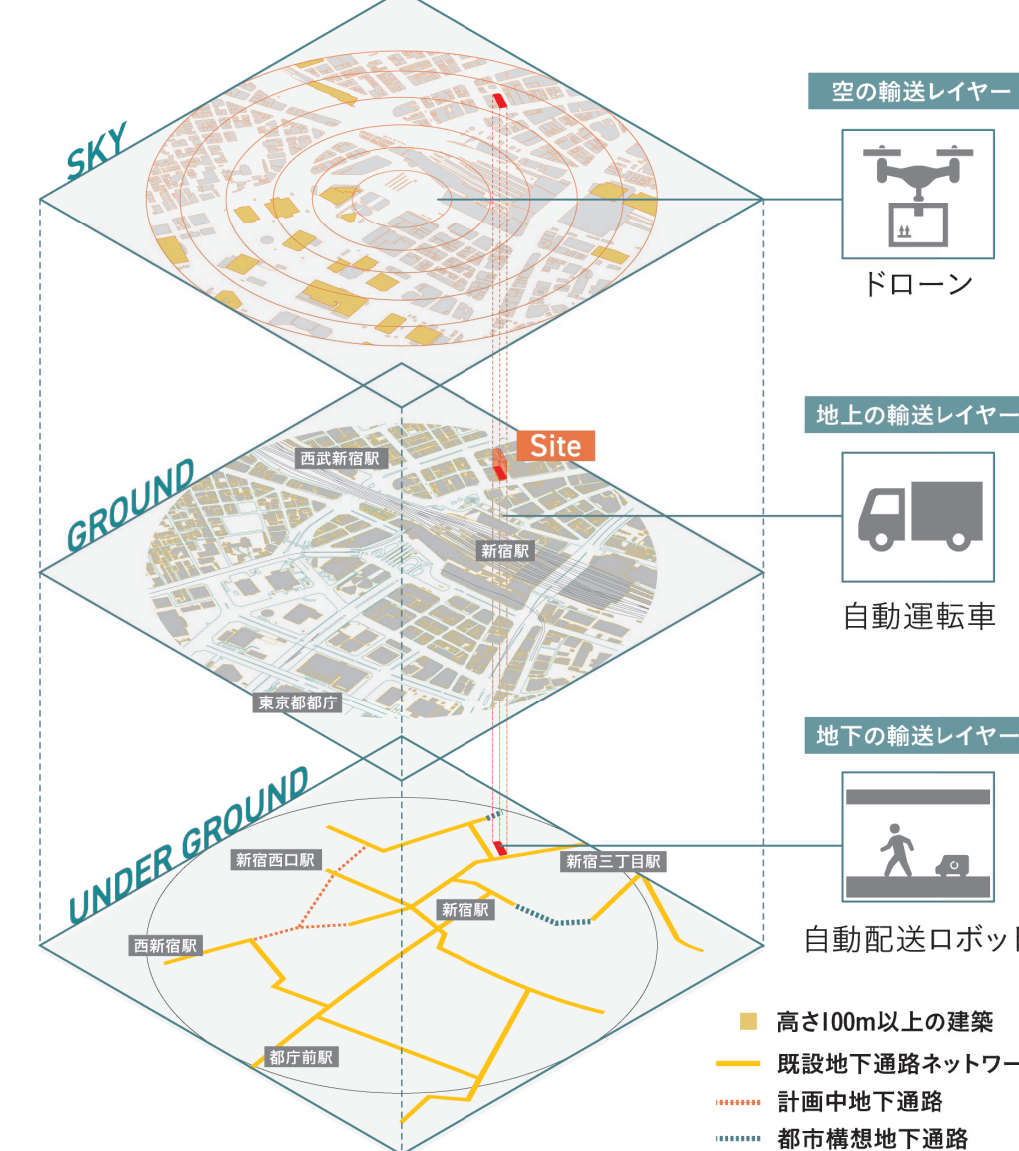


03. 建築とモビリティが地下・地上・空をつなぐ

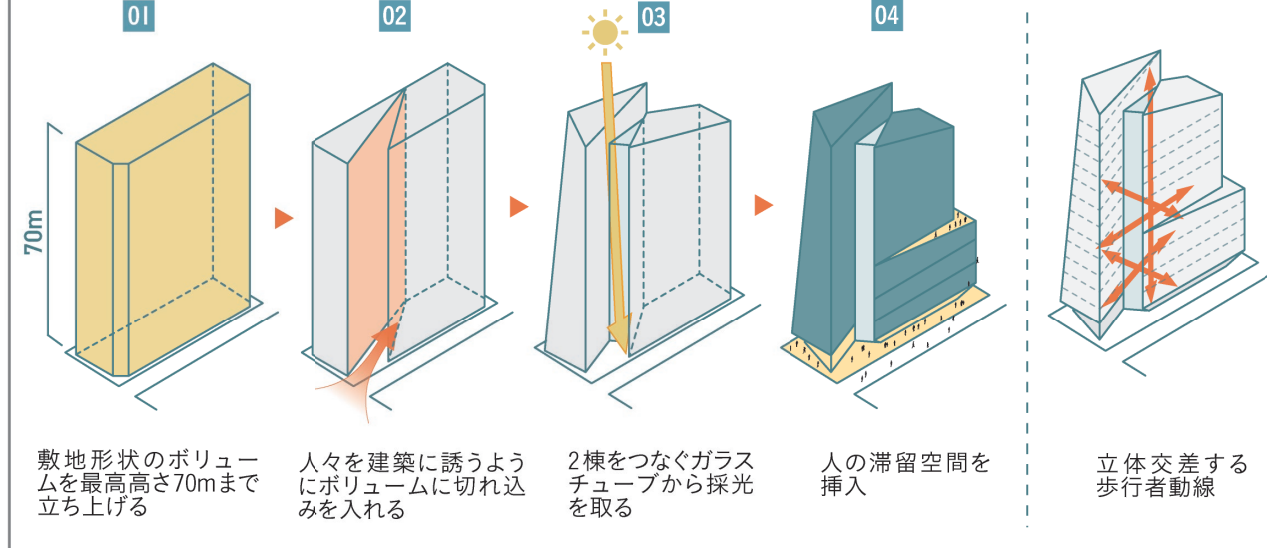


04. 地下道も高層ビルも運送網として活用

次世代モビリティによる運送を**空・地上・地下の3つのレイヤーで分担**させ、**荷さばき滞りを解消**する。次世代モビリティに手荷物を預けたら、地下道を使って公園までお昼ごはんを届けてもらったり、レイヤーは多方面に活用可能。

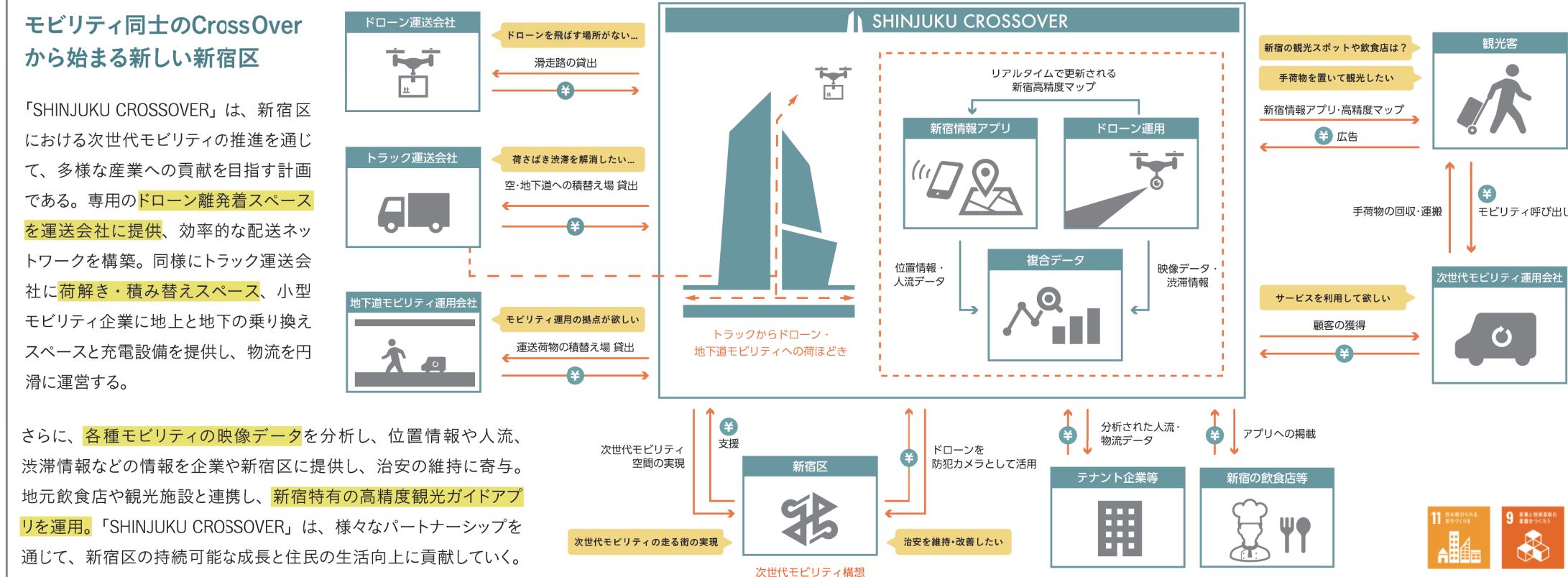


05. 形態ダイアグラム

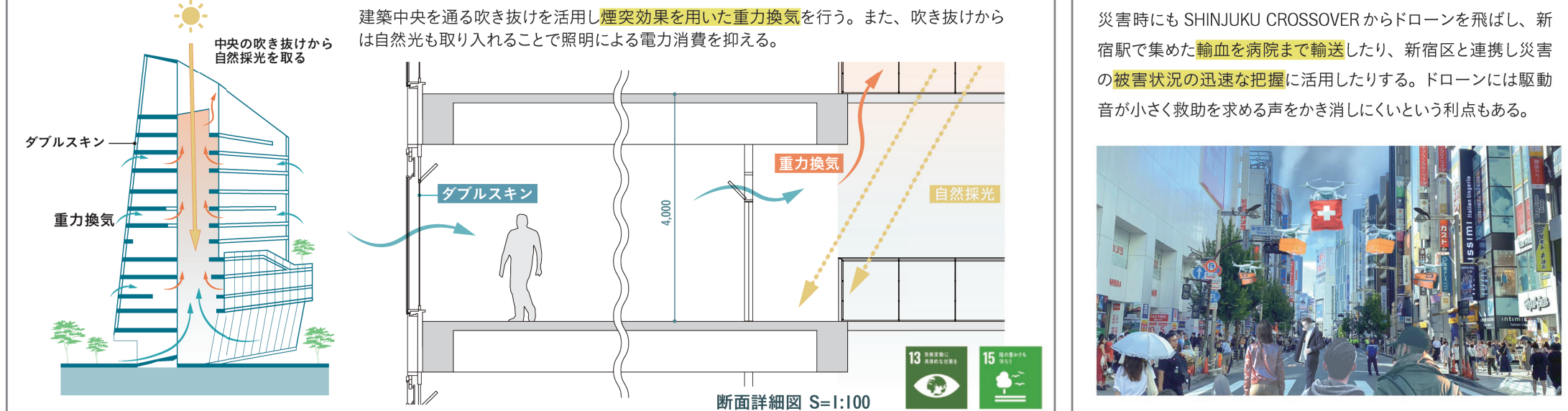


敷地形状のボリュームを最高高さ70mまで立ち上げる
人々を建築に誘うようにボリュームに切れ込みを入れる
2棟をつなぐガラスチャームから採光を取る
人の滞留空間を挿入
立体交差する歩行者動線

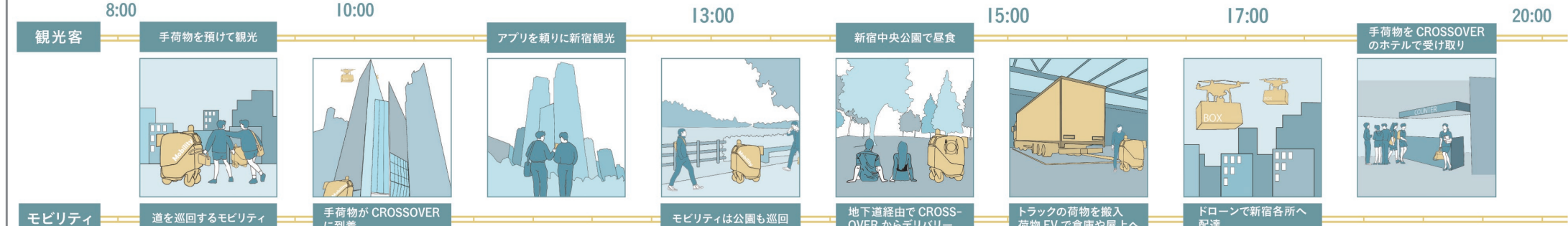
07. 次世代モビリティと建築の連携により生まれるサービス形態



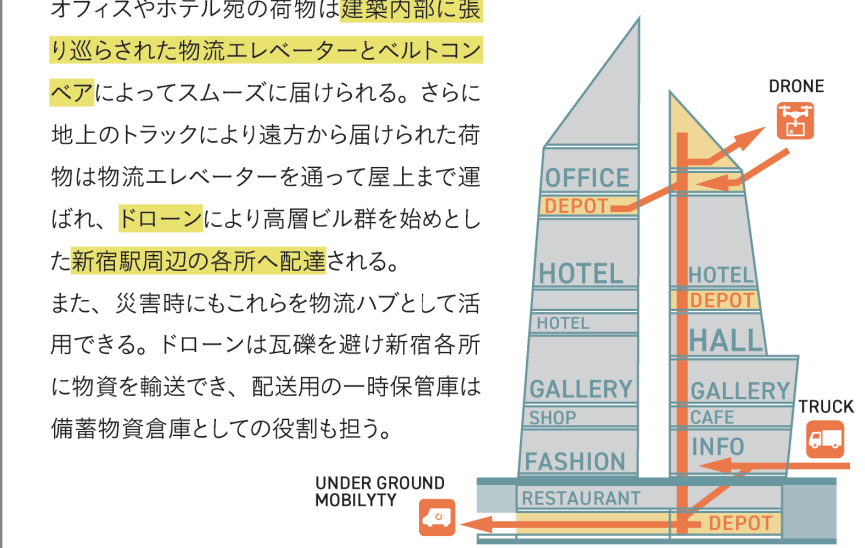
08. 自然換気・自然採光を活用した環境計画



10. 観光客の一日 / モビリティの一日

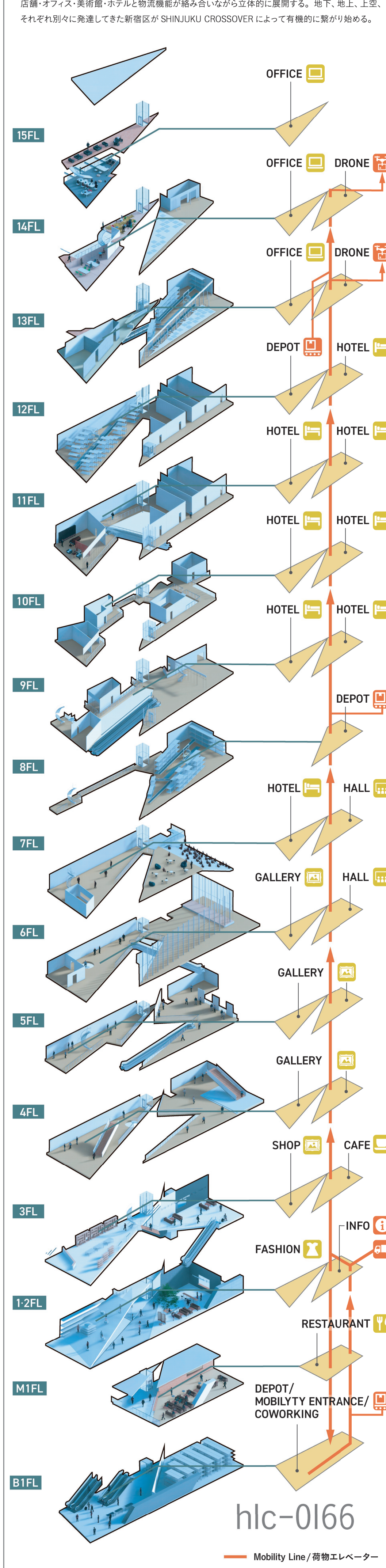


06. 組み込まれた物流動線



オフィスやホテル宛の荷物は**建築内部に張り巡らされた物流エレベーターとベルトコンベア**によってスムーズに届けられる。さらに地上のトラックにより遠方から届けられた荷物は物流エレベーターを乗って屋上まで運ばれ、**ドローン**により高層ビル群を始めとした**新宿駅周辺の各所へ配達**される。また、災害時にもこれらを物流ハブとして活用できる。ドローンは瓦礫を避け新宿各所に物資を輸送でき、配送用の一時保管庫は備蓄物資倉庫としての役割も担う。

11. モビリティ動線でつながる多様な機能



hlc-0166

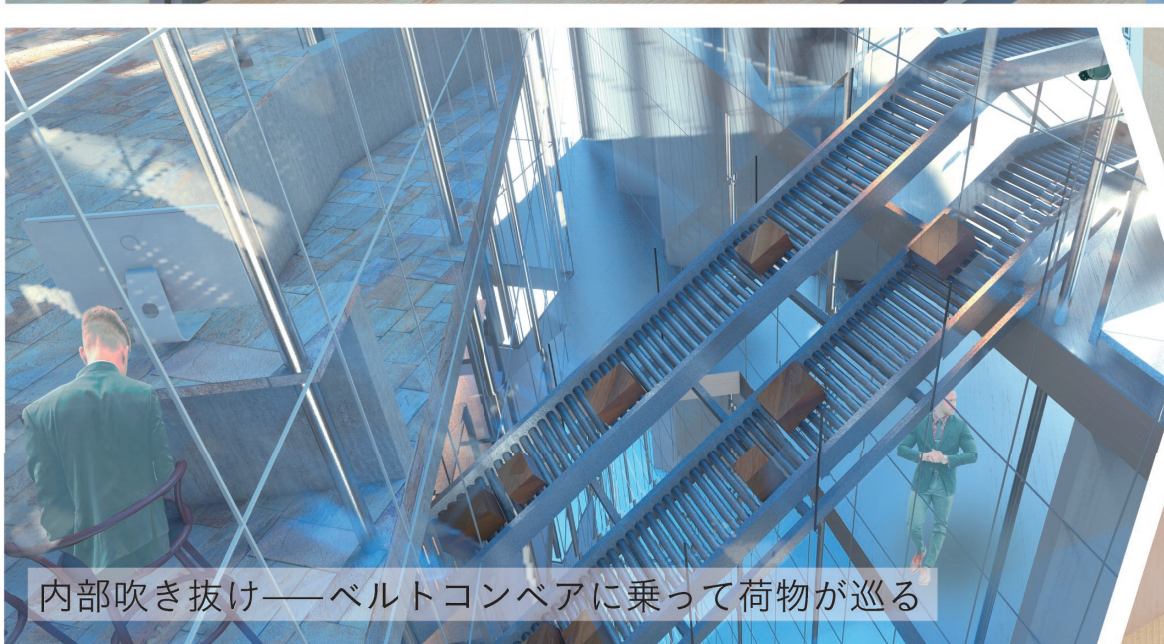
Mobility Line / 荷物エレベーター



7階テラス——ドローンが運んできた宅配ピザを受け取る



オフィスフロア——ガラスの向こうには物流ベルトコンベアが見える



内部吹き抜け——ベルトコンベアに乗って荷物が巡る



一時保管倉庫——ベルトコンベアによって運ばれた荷物がドローンにより配達される



荷物を受け取る